



襖
乃
着
途
中

~ 5
5627
2



5627
2



金沢屏川 短哥行

青梨

須臾よ〜やまれば 石 日 ぬ
凡 門 暮 暮 の 給 如 び び 里 ぬ
然 之 也 海 雲 多 其 月 正 々 々
後 の 山 麓 へ 虫 け け け け 常 及
と 袋 へ 入 け け け け け け け け け
と 来 け け け け け け け け け 梨

非中



もつは湯よも秋のうけぬ 祝祭 及
頃よはふりて集てあられと 儀
船頭も二石りてくまを 入 梨
日とてふししすの夕ふさ 石
白髪よ見えぬおむの室さ 儀
腰にけしれぬ鳴のやうさ 及
心さのどおとやうら小津さ 石
宿の娘とまのつむ 賞 吟 梨

芝居の故陣のあそびしめし言ふ 及
祝もさしりて 換ふ 元 儀 儀
一宿の山とくもまよし 何とあり 梨
まよしうまの月と子守 石
大名の尻あふりてれ 唐国 扇 儀
ほしまきちて 道の本道 及
配くそし 暖や庭の氣とけり 石
まよの歌のよをよし 梨

排中

むら今あらふあの名ついで
及
梅も柳も木も御路も
後

同前 短歌行

素然

涼さや柳も路の仮不帯
破風の夕日もはたけり
折水 里紅
己身の胎を料理よくけり
小春

お登の名とすてことわく
山葉
月影もまゝふれ柳も
呉服橋 岐草
さきのよみひの目も
みえぬ
松柳も化糖はれ
影とよ
向ふり
ふ
歯むけの
ほめ
の
ま
て
遊
従
春
戸口も
細の
ち
え
と
ま
て
や
り
紫
除あ
ら
る
柳
も
影
も
日
の
ほ
を
葛
嘆む
も
屋
も
櫻
も
か
し
ら
る
如

非甲

三

二
身帽子のくくく株梁の鼻
此酒は千鐘しりくも喜あれや
今如川として今も流る
息も廢人あれいさのよん
女子もくくくくくくく
うくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくく
とくくくくくくくくく
葉

ウ
姉くくくくくくくくく
さきさきして傍いあぐ縁日
若く今も有戸のあ海初り
そくくくくくくくくく
葉

同前 短行

知角

信しそ和ふねし月涼

夢破えくしとをふと栲の船 里紅

お例しそ中せの羽織下されて 銀水

初日しにちれふ 衛一立 平哉

う 系ふむいあう海かきし喉ちし 沂音

連歌の口も あらふ 在 僧 序柳

らもふし徳化の暇し 系とて 佳云

そふとゆふんととせらぬ 鐘 燈 角

町へ今つれぬ妹入の 専の 鏡 水

もゆふとてふしぬ 細 水 哉

まれそしをふのむし 彼 芥

けしそ之 福 信 の 書 信 青

心 登の 親 心 而 思 入 旧 く 之 柳

背 念 々 ち ち け 切 切 の 歌 云

五月のちかきうらた清くまで
 豆麩を煮てまじりて山科
 水と味練りてうらた水
 漬りてれいそと汁をゆるし
 漬青の煮しらしてうらた水
 子いれ獲の強飯をいれ
 汁煮の煮しらしてうらた水
 い夕暮と漬りてうらた水

山とむし市の煮しをうらた水
 うらた水と漬りてうらた水

同前
 短き行

史志

白山の煮しをうらた水
 餅と水の餅七南東里
 小豆をうらた水と漬りてうらた水

金沢津野川 短歌行

藤守

鶯のさけりきりや河

跡もなき旅の体む布搦 里紅

柳の蔭のを鼓よたてしうたれて 野泊

う よろねく 猫もたてしうたて 不 桃里

笑いけりしよねまの夕月如 白史

彼をよほさるはれとあま 由之

袂もさきし綿の巻こちり ぬ

頃けりしうたてしうたて 守

伎も翁の集錦の口しり 里

恨もたしうたてしうたて 史

まのめしうたてしうたて 之

まのめしうたてしうたて 史

終もけりしうたてしうたて 史

破りしうたてしうたて 史

非中

掃
か
吸
休
こ
わ
切
先
史

一
此
一
史

同
短
行

侶
語

天
夕
踊
史

名傳くおまの町らひくせて
 鐘のまるとあけちてあけ
 ころよさくふらむに校よむ
 門前の新地へ歸りゆく
 壬午のまゝに
 心も懐くもくもあはれ
 二町七とて船子のち席下
 本扱のまけりてあけける
 一凡

輝とあけさかたのち
 晩禱中檢ぬるのあき
 名月よるのあきま
 母の磁とほくま
 月影のほくま
 ちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちん

同前 短哥行

馬流

あふちやうよほのかへきし
 子橋のふらひの市も橋く
 菽入七月の夏ぬく指あう
 ちかてまうりあひ 彦人
 餅橋のさきうりへさう
 あらうりまうり山の片元
 市仲 赤身 丑妻 和梅 里み

持次と其原の中もさかあひ
 丸岩とちやうりやうり
 あふちの白のまうりぬ
 ちかてまうりあひ 彦人
 餅橋のさきうりへさう
 あらうりまうり山の片元
 市仲 赤身 丑妻 和梅 里み

卯の膳も日暮しあはれ
 女房の月もさしあはれ
 ちんと所へはなれ書
 女房の白髪もあはれ
 葉山子さしあはれ
 河原のさしあはれ
 隠居探へもさしあはれ

せとちちあはれ
 ちのちあはれ

同所 短奇

標司

ちのちあはれ
 娘の錦もさしあはれ
 ちのちあはれ

名月の入也くー山の中
 心くくくくくくくくくく
 村多のあはいあはいあはい
 着座くくくくくくくくく
 海つくくくくくくくくく
 名月と海くくくくくく
 二月のあはれくくくくく
 種分

取ふく被やあもてくくく
 名月くくくくくくくくく
 維石

能登

七尾 短哥行

司鏡

虫のよき中くくくくく
 月ぬのあはれくくくく
 里紅

傍のるよ市をあるいふうれて有己

振音のあゝを可くうれ 鶴背

頃一きくはくうききき 寺隣 芝井

舞うふけいき一のじらり 鯉

ふふのまね祈をも親くうれ ぬ

峰下の勢い入る地々きん 己

息吐のあゝくもけいもほろ 皆

ふたのるゝはよゝるれ 井

はくまゝのあゝくもけいもほろ 鯉

あゝまゝのあゝくもけいもほろ ぬ

子日のあゝのあゝくもけいもほろ 己

かゝるゝくもけいもほろ 皆

里便のあゝくもけいもほろ 井

稔のトもはまゝくもほろ 鯉

あゝまゝのあゝくもけいもほろ ぬ

やゝのあゝくもけいもほろ 己

非中

非

信のよの空^{カサキ}五月の月の影のうら
 又おと供よらあのを幸^ウ持^ウ 朴
 お起も棉よあとの果とら^ウ 穂
 幕はらへよ二階^ウ 掃^ウ ぬ
 後の柳海^ウ 入^ウ 込^ウ 己
 向^ウ 丁^ウ 入^ウ 羨^ウ 流^ウ 七^ウ 移^ウ 七^ウ 翁^ウ

同町 経^ウ 寄^ウ 寄^ウ

交^ウ 喃^ウ

えのえへあきとや白^ウ 木^ウ 椋^ウ
 流^ウ 山の^ウ られと^ウ 山^ウ 花^ウ の^ウ 流^ウ 里^ウ 石^ウ
 小^ウ 神^ウ ころ^ウ お^ウ 流^ウ の^ウ 枝^ウ と^ウ 葉^ウ ころ^ウ 下^ウ
 伯^ウ 母^ウ の^ウ 心^ウ に^ウ 葉^ウ 家^ウ の^ウ 灯^ウ 塔^ウ 石^ウ
 雷^ウ も^ウ ち^ウ ち^ウ ら^ウ の^ウ 利^ウ ころ^ウ 史^ウ 負^ウ
 一^ウ 畑^ウ ち^ウ ら^ウ の^ウ 下^ウ 味^ウ

二
 此のまゝと云ふは唐はの名とよみぬく
 意は傳ふと代い余下のむも
 此のまゝと云ふは唐はの名とよみぬく
 意は傳ふと代い余下のむも
 此のまゝと云ふは唐はの名とよみぬく
 意は傳ふと代い余下のむも

凡ト云はるる言とあふくまらるる
 竹心と云はるる言とあふくまらるる
 月のおもひと云はるる言とあふくまらるる
 木の葉と云はるる言とあふくまらるる

非中
 部

あまのこゝろをいかにしむるに
お

あまのこゝろをいかにしむるに
右

同前 短歌行

和菊

あまのこゝろをいかにしむるに

あまのこゝろをいかにしむるに
里紅

あまのこゝろをいかにしむるに
晚九

あまのこゝろをいかにしむるに
醉菊

あまのこゝろをいかにしむるに
花

あまのこゝろをいかにしむるに
也

あまのこゝろをいかにしむるに
日備花

あまのこゝろをいかにしむるに
菊

あまのこゝろをいかにしむるに
菊

あまのこゝろをいかにしむるに
九

あまのこゝろをいかにしむるに
花

和菊

和菊

二 妹と誰と何うもかくはる 子
らんまの格と人目のかたまり 新
歌とくまのまのまのまのまのま 五
ふさふさのまのまのまのまのま 九
じいじいといしていしていして 五
まのまのまのまのまのまのま 五
まのまのまのまのまのまのま 五
不_レ成_レまふまふとてまのまのまのま 五

二 水のたよりとよしとよしとよし 新
まのまのまのまのまのまのま 五
こせしとよしとよしとよしとよし 九
まのまのまのまのまのまのま 五
まのまのまのまのまのまのま 五

名録

いろの情を染みよけり 瘧しゆく 司短
 挨拶よけり 信しきり 杜若 其味
 ちかかや 春をわたり 言のわ 有己
 百も七子よちり ちり 孫 和莉
 ちりしきり 潮をわたり ちり 長羽
 いのちをわたり ちり ちり 九

ちり ちり ちり ちり 水 琺石
 ちり ちり ちり ちり 史員
 ちり ちり ちり ちり 鶴
 信をいせり ちり 入日のちり ちり 衣
 ちり ちり ちり ちり ちり 破菊
 ちり ちり ちり ちり ちり 東命
 ちり ちり ちり ちり ちり 世命
 海をいせり ちり ちり ちり ちり 世命

越中

氷見 短音句

新への橋よ水麻のちと森よ

海人

松茸ちとしいりちとれ兼

里丸

お役よるちとしいりちと月とて

野刀

隣ちとしいりちとれ兼

善山

上よちとしいりちとれ兼

仕亮

回廊りくも傍へ杖

佳朴

ちと雪のちと月とて

千坂

いりちとしいりちとれ兼

巴流

むよちとしいりちとれ兼

未園

ちと雪のちと月とて

人

ちと雪のちと月とて

山

市のほとちとしいりちとれ兼

石

衣張よ日のちとしいりちとれ兼

井

排中

廿八

早合と合はるて月い入まら 未因
ふくくふく破りてねるやきとを 千林
袖の音や地をふ掃くまをまつ川 巴流
肥肉ふ信もくはく一まき人 茶 苦山
糖味鳴よ復て暖くや暮るのそ 桂朴
皆とやれもていふよ 柳一ふ ぬ人
信房しぬく整りて十ねふ 燈文
思のまぢなむいひんてしやあやせ 亞亮

まゐるかにいひくやきよのまてはく 可成

高岡 短行

瑞起の年よきこてら ぼくま 互鑑
さき供のちるま條かしむまの香 町屋
お蔭のちりふし月しきまとてら 除先
研てししむれとせこくろ 拈 吟志

俳神

詩

可^レ至^レし^レて^レた^レら^レぬ^レる^レも^レあ^レら^レば^レ後^レ致^レ老^レ
の^レ意^レし^レて^レた^レら^レぬ^レる^レも^レあ^レら^レば^レ後^レ致^レ老^レ
孫^レの^レ等^レ々^レサ^レカ^レカ^レ川^レい^レし^レひ^レに^レ
小^レ使^レさ^レり^レ孫^レと^レ京^レ條^レを^レ
論^レじ^レて^レ睡^レと^レし^レて^レあ^レら^レば^レさ^レら^レず^レ
片^レを^レ根^レこ^レつ^レて^レ論^レじ^レて^レ一^レ言^レを^レ
此^レの^レら^レら^レ孫^レと^レし^レて^レあ^レら^レば^レさ^レら^レず^レ
此^レの^レら^レら^レ孫^レと^レし^レて^レあ^レら^レば^レさ^レら^レず^レ

は^レち^レ誰^レと^レして^レあ^レら^レば^レ後^レ致^レ老^レ
論^レ法^レよ^レり^レて^レあ^レら^レば^レ後^レ致^レ老^レ
天^レ斤^レの^レ偏^レを^レさ^レし^レて^レあ^レら^レば^レ後^レ致^レ老^レ
不^レ笑^レの^レ意^レを^レあ^レら^レば^レ後^レ致^レ老^レ
之^レ上^レに^レあ^レら^レば^レ後^レ致^レ老^レ
葉^レ山^レ子^レの^レら^レら^レば^レ後^レ致^レ老^レ
も^レあ^レら^レば^レ後^レ致^レ老^レ
味^レの^レら^レら^レば^レ後^レ致^レ老^レ

一
一

流槎のうらみ けさるゝ火をくそく 航

かゝるゝまゝのうらみ けさるゝのあき 志

をねまゝのうらみ けさるゝのあき 志

ねまゝのうらみ けさるゝのあき 志

可憐

可憐

自憐する人よ けさるゝのあき 志

けさるゝのあき 志

けさるゝのあき 志

けさるゝのあき 志

けさるゝのあき 志

けさるゝのあき 志

けさるゝのあき 志

けさるゝのあき 志

晦日と云はれしは
まの年とちよと信
す欄と云はれしは
はらと云はれしは
こき持と云はれしは
このよと云はれしは
まの年とちよと信
す欄と云はれしは
はらと云はれしは
こき持と云はれしは
このよと云はれしは

連と云はれしは
鳩吹抄と云はれしは
夢ま相と云はれしは
瘧のしけの今と云はれしは
あらしと云はれしは
るよと云はれしは
匠と云はれしは
まれと云はれしは

非中
世

同前 短二行

虚舟

ちんちんいんちん 極麻のすうせうん
 葉らよのさきよけくまの 里お
 中ぬし市の後とありしうて 随所
 六人いんちんきんちん 共固
 絶層おて心のこころやまこ 雨柳
 せいさくけりさの 葉陽む 至方

髪ゆつてやうよと 髪毎の直あつさ 菖蒲
 余石の妹入よ 娘もそいこ 舟
 そろくそ病の口うていこ 移の上 園
 旅とけりりのやまいしれと 舟
 帰ほよやうくちのむいん 舟
 二日後のあつしお付 柳
 日とくははさるはく青やま 舟
 ありけ八卦の遊人よ 原 角

くらに秋ひあきそいふものかきよ
 組玉とまりうらわくお舞園
 音月とて音音よれとらえ
 強はさもあつて意味深方
 お代名の氣いそつるはの月角
 おまきのぬるよいそるをえ毎
 大ね掃しりよと大ね意一り方
 かくあしとさしちのふせらふく
 一舞

ちんく真いさひむらね
 ちんくしんかてせむ存うらむ
 柳園

名録

ちんくしんかてせむ存うらむ
 ちんくしんかてせむ存うらむ
 ちんくしんかてせむ存うらむ
 ちんくしんかてせむ存うらむ
 ちんくしんかてせむ存うらむ
 柳園

之跡のよし穂尾中本の子狩 志虫
あやゆかきしりしりあはれ畑 吟志
よのほくわらや田領のあはれ木 里凡
百の口あききく くらや菅蒲賣 支汝
稲妻のなとけしり木さふ 夜航
人あや林麻よさうね大根引 一東
乳や一うらのなまきくさく 如吹
よほ言中ふえよよさく 計 听之

あし者よんか心扉はや真さ候 依中
信の子のしとけしりあはれあはれ 甫天
よはれあはれあはれあはれあはれ 奇全
さきのあはれのしとけしり 昌子 遅水
えし種の日よきよきりやる并 至方
あしりし 秋のさきあはれあはれ 菖角
片ほくわな女こくわや雛のさき 可説
平保あはれあはれあはれあはれ 芳推

七六

いんちうきんよをれつや梅の余ふり
 路角 簞打母のらの 柳 市ん
 さ山のちやちよとれくも世
 市ん 柳のそあしき 移めちね
 除先 裸子の妻つゞき 涼こふ
 虚舟 ち柳の影や赤條紀のちつて
 万水 大さや麦のちと



浮葉のいよあそふや赤いんち
 雨柳 石糸や繪師のいとちの刷毛
 乙調 ち柳の中森言や赤のおねら月
 志由 ちよ 柳も 嘆き 幸の内 其園
 本書 加賀のまのちとち 柳やあまの川
 可然 ちよのいして 嘆きの 佳
 法のちや 柳の 次と ち月 西 互趙

